



(近江八幡)

野々宮遺跡は、大岩山丘陵より西へ約〇・七km下った、標高九三〇～九八mの沖積地に位置する。一九八四年、当該地に約六二、五〇〇㎡を対象とする宅地造成が計画され、七月より試掘調査並びに一部発掘調査を実施した。この地は当初より弥生時代後期から中世を主体とした遺跡が広がっており、調査の

滋賀・野々宮遺跡

- 1 所在地 滋賀県野洲郡野洲町大字富波甲字殿町・野々宮
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)七月～一九八五年三月
- 3 発掘機関 野洲町教育委員会
- 4 調査担当者 進藤 武
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代前期～古墳時代前期、古墳時代後期～飛鳥時代、平安時代～室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

結果も、ほぼ全域より同時代を中心とした遺構・遺物が確認された。木簡は、対象地の南西部、朝鮮人街道に最も近い調査地点の井戸内より出土した。井戸は伴出遺物に乏しいが、樋底板、土師器片が見られ、隣接地点からは室町時代中期と考えられる掘立柱建物、溝、土壙を検出しており、井戸も凡そ一五世紀中葉以前に機能していたものと考えられる。

8 木簡の积文・内容

(1) 「忠」



110×(22)×1

赤外線テレビにてかすかに「忠」の文字が判読できた。木簡の周囲には墨線があり、その墨線にそって整形した可能性もある。反りの方向が逆であるが、桧扇の骨板に類似している。(進藤 武)